

Novo Nordisk NEWS LETTER

2
2017

[ノボ ノルディスク ニュースレター]



INTERVIEW

「世界一幸福な国」を支える デンマーク流の社会と経営

経済、文化等で多くのつながりをもつデンマークと日本。
2017年は、両国間の外交関係樹立150周年に当たります。
オーレ ムルスコウ ベック社長が、
同じ島の生まれで高校の同窓生でもある
フレディ スヴェイネ駐日デンマーク王国大使を訪ね、
デンマークならではの文化や社会基盤と、
ノボ ノルディスクの経営哲学との関係について語り合いました。

駐日デンマーク王国大使

フレディ スヴェイネ

ノボ ノルディスク ファーマ代表取締役社長

オーレ ムルスコウ ベック

Photograph : Masato Kato

オーレ ムルスコウ ベック (以降、ベック) : 今年は、デンマークと日本の外交関係樹立150周年となった記念すべき年ですね。

フレディ スヴェイネ駐日デンマーク王国大使 (以降、スヴェイネ) : はい、ロイヤルファミリーが互いに相手国を訪問するなど、両国の絆の深さを再確認し、互いをよりよく知るためのイベントが目白押し的一年となっています。

日本の方にデンマークを知っていただくためのキーワードとして、「世界一幸福な国」があります。実際、なぜデンマークが何度も世界幸福度ランキングでトップになっているのかとよく聞かれます。それについてはこれからベックさんとお話できればと思いますが、デンマークが「世界一幸福な国」と言われているからといって、デンマーク人の考え方や社会の仕組みをそのまま日本に取り入れる必要はないと私は思っています。日本は日本が大事にしたいものを



フレディ・スヴェイネ

駐日デンマーク王国大使。1957年、デンマーク生まれ。コペンハーゲン大学卒業後、デンマーク外務省入省。在ブリュッセル・デンマークEU代表部書記官、在仏デンマーク大使館参事官、デンマーク企業A.P. Møllerグループ出向、デンマーク外務省通商貿易政策担当審議官、デンマーク外務省トレード・カウンシル事務局長・大使、駐日大使、デンマーク農業理事会CEO、デンマーク外務省EU/EPA担当大使、駐インド大使（ブータン・スリランカ・モルディブ兼任）などを歴任し、2015年より、2度目となる駐日大使に就任

軸として幸せを追求するのがいいはず。その過程でデンマーク流の幸せがなんらかのヒントになってくれたら、とてもうれしいですね。

ベック：おっしゃる通りですね。デンマークの幸せの理由は、教育、ヘルスケアなどの社会福祉やワークライフバランスなど様々な面から語られますが、スヴェイネ大使はどのようにお考えですか？

スヴェイネ：私は、意思決定においてコンセンサスを重視する社会が、デンマーク流の幸福の基盤になっていると考えています。

ベック：なるほど。私は日本に来てから、日本社会も、人びとの同意をととても大事にする社会であると学びました。両国の間には何か共通する部分がありますね。ただ、同じく私の経験によれば、目指すものは同じでも、コンセンサスを目指す方法は違うかもしれません。

スヴェイネ：デンマークにおいてコンセンサスを重視する社会が機能するのは、ものごとを決めるときに全員が議論に参加するからだと思います。私たちは幼稚園生ぐらいの幼いころから、ある議題に賛成であろうと反対であろうと、関心があるとなかろうと、自分の意見を持ち、表明することを求められます。皆で行なう決断のプロセスに、自分も一人の重要な主体として参加することを教えられますよね。

ベック：それに加えて、デンマークでは人と人の関係がフラットです。大使だから偉い、社長だから偉

いという考え方はせず、誰もが対等に自分の意見を言いますし、上に立つ人も、自分たちとは異なる視点の見方も含め、できるだけ部下から意見を聞いてものごとを決めるのを好みますね。

誰もが対等な社会だから 全員が意思決定に参加する

スヴェイネ：日本では、「大使は偉い人」という意識があるためか、会議などで私が口火を切ってしまうと異論がなかなか出されない傾向があります。でも私は反対意見も聞きたいし、全員に意思決定に参加してもらいたい。そこで私は、ふつうとは違った方法を始めました。会議の直前に突然、メンバーの一人を呼んで、「今日の会議の議題は僕からではなく、あなたから出席者に説明してほしい」と振るんです。そうすると、指名された人にとっては、会議が「大使から説明を受ける場所」ではなく、自分が主体となって動かすプロセスに変わります。ほかの人も、いつその役割が自分に振られるかわからないので、毎回の会議への臨み方が変わってくるのです。

ベック：それは非常にいい方法ですね。私は日本支社の会議でもデンマーク人を相手にしているときと同じように、ほかの人が発言しない限りひたすら話し続けてしまっていたのですが、赴任して1年半経った今では、自分や誰かの発言のあとに沈黙があっても「意見がないのだろう」と決めつけず、10秒待つことを自分に課しています。日本の人びとは、話し出すのに少し時間がかかることが多いですからね。

スヴェイネ：それもいいですね！ また、デンマークでは権力者をより重要な人物と考えることはないけれど、政府や政治家に対する人々の信頼感是非常に高い。リーダーに対する信頼も、デンマークの幸福度の高さに貢献していると思います。

ベック：私も、デンマークがコンセンサスを大事にする平等な社会であることが、その背景にあると思います。政治的なプロセスにおいても、水面下で誰かが決めるのではなくオープンな場所で率直に、対等に議論が行われる。この透明性が政府への信頼感を生んでいるのでしょう。

スヴェイネ：汚職がないことも政治への信頼感のベースにありますね。デンマークは汚職の少ない国のリストにおいて、常に世界のトップクラスですから。

ベック：そうですね。政治の世界に限らず、ノボノルディスクでも同じです。ノボノルディスクは世界中で事業を展開していますが、常に正しい形で社会とも、社員とも関わっていきたいと考えています。そこで妥協をして倫理に反することをするくらいなら、その国でのビジネスを失ったほうがいい。なぜなら、私たちは自社の経済的な成長だけではな

く、糖尿病、成長障害、血友病の患者さんのためになることも目的にしているからです。ビジネス上の目的を達成するためだけでなく、個々人の幸せに貢献するために頑張っています。

「アメリカンドリーム」の代わりに 「デンニッシュハピネス」がある国

スヴェイネ：御社は患者だけでなく、糖尿病のリスクのある人たちへもケアの手を差し伸べています。自社と社会の共通のプラットフォームを作り、糖尿病を予防し、糖尿病の人びとのより健康的な人生のために、ともに進もうという哲学で事業をされていますね。

ベック：たいていのデンマーク人は、仮に自分ひとりがよくても、周りの人が不幸せだったら自分は幸せにはなれないと考えます。ノボ ノルディスクは、デンマークに本拠地を置く企業として、きわめてデンマークらしい価値観で経営されています。

スヴェイネ：たしかに、「社会全体で幸せとなる方法を探ろう」というマインドがデンマークの価値観の中心にあります。

ベック：デンマークでは女性の就業率が高く、家庭内でも夫婦が対等な関係を築いていますよね。それは、人口の半分を占める女性が幸せでなかったら社会としては幸せでなく、それでは結局男性も幸せになれないという考えのもとに、女性だけでなく男性も、男女が平等な社会を目指してきたからだと思えます。

スヴェイネ：そうですね。個人の成功より社会の幸せを目指すデンマークには、「一攫千金」のような、いわゆるアメリカンドリームはないかもしれません。しかしその代わりに、デンマーク流の幸せ、「デンニッシュハピネス」があります。

ベック：そして日本には、周囲との調和を大事にするマインド、他者への思いやりなど、デンマークの価値観とも重なる部分が多々ありますね。

スヴェイネ：両国は何千キロも離れているにもかかわらず、共通の価値観を持っています。だからこそ、お互いに学び合えるものがたくさんある。幸い、今年は両国にとってメモリアルイヤーですので、その機会を提供するイベントが多数開催されています。

ベック：デンマークでも、日本のアートや建築、工芸にフォーカスした展覧会が開かれるなど、日本の文化やライフスタイルを学ぶことのできるイベントがたくさん行われていますね。

スヴェイネ：私が日本で大変楽しみにしている行事の一つは、ノボ ノルディスクさんと、同じくデンマーク企業であるECCOさんとともに開催する「DENMARK フェス&ウォーカソン」です。

ベック：10月7～8日の2日間、東京都江東区の豊

オーレ ムルスコウ ベック

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社 代表取締役社長。1959年、デンマーク生まれ。コペンハーゲン大学医学部卒業、スカンジナビア国際経営研究所MBA取得。オーフス大学薬理学部でのリサーチフェロー、病院でのインターンを経て、1990年にノボ ノルディスクに入社した。さまざまな領域で数々の役職を歴任し、2016年1月1日より現職



洲公園で開催します。この2日間、デンマークの文化やライフスタイルをさまざまなイベントで分かち合い、デンマークの幸せの源泉を感じていただくイベントにしたいと思っています。

スヴェイネ：2日目のウォーカソン（ウォーキングとマラソンをあわせた造語）では、私もはりきって歩きますよ！

ベック：ウォーキングは糖尿病対策に欠かせない運動療法の一つですし、ノボ ノルディスクとしてはこのイベントに、ウォーキングを通して多くの人に健康的で幸せな生活を送っていただきたいという願いをこめています。体を動かすと、脳内にエンドルフィンという幸福感を強める物質を分泌されます。ぜひ、参加された皆様にデンマーク流の幸せを味わっていただけたら。

スヴェイネ：デンマークと日本で多様なハピネスをシェアする2日間となるでしょう。イベントで多くの方とお会いできるのを楽しみにしています。

（構成・江口絵理）



INTERVIEW

「DENMARK フェス&ウォーカソン」に血糖値測定体験コーナーと会社紹介ブースを出展

『世界で一番幸せな国、デンマークを歩こう』をテーマに、10月7～8日に、東京都江東区の豊洲公園で「DENMARK フェス&ウォーカソン」が開催されます。

デンマークの国民的キャラクターであるラスムス クルンプ、元格闘家でクロスフィットアンバサダーのニコラス ペタスさんや、元スキー ノルディック複合日本代表の荻原健司さん、スポーツキャスターの荻原次晴さん、プロゴルファーの古閑美保さん、また欧米で活躍

中の腹話術師でシンガーのピーター ノアガードさんが、スペシャルゲストとして来場します。

ノボ ノルディスクは、血糖値測定体験コーナーと会社紹介ブースを設置します。ブース来場者にはクイズに挑戦いただき、正解者には今治製の“Changing Diabetes マフラータオル”をプレゼントします。また、会場内ステージでは、生活習慣病の予防や治療への効果で注目を集めるスロージョギングや血糖値など

をテーマに、健康に関するトークショーを開催します。



『糖尿病の克服を目指す、バイクチャレンジto宇都宮』開催

1型糖尿病患者のみで構成されたプロサイクリングチーム「チーム ノボ ノルディスク」が参加する「第26回 2017 ジャパンカップサイクルードレース」(10月22日開催)に向けて、1型糖尿病患者さんを含む約20人が、東京 丸の内からレース開催地である宇都宮まで約130kmを自転車でする『糖尿病の克服を目指す、バイクチャレンジto宇都宮』を行います。

チーム ノボ ノルディスクのメンバー、1型糖尿病患者さん、ノボ ノルディスク社員が、10月20日午前9時に丸の内を出発します。チーム ノボ ノルディスクの創設者で現CEOのフィル サザーランドや、ノボ ノルディスク日本法人社長オーレ ムルスコウ ベックも参加。「糖尿病とともに生きる人々が、自分の夢を実現できるように前向きに糖尿病と向き合い、それぞれの人生の目標に向けて糖

尿病を克服していくこと」を体現し、応援します。



心・脳血管疾患を発症した2型糖尿病患者さんと家族の意識を調査

毎年9月29日は、心筋梗塞や脳卒中といった心・脳血管疾患の予防キャンペーンが世界規模で行われる「ワールド・ハート・デー」です。ノボ ノルディスクはこの日に先立ち、9月26日に糖尿病プレスセミナーを開催。国立循環器病研究センター病院 動脈硬化・糖尿病内科医長の榎野久士先生をお招きし、2型糖尿病と心・脳血管疾患の関係について解説いただきました。

糖尿病の患者さんは、糖尿病でない人に比べて、心・脳血管疾患による死亡リスクが約2倍となることがわかっています。

糖尿病患者さんは動脈硬化が進みやすい上、高血圧などを抱えていることが多いため、心・脳血管疾患のリスクが高まるのです。

しかしノボ ノルディスクが2型糖尿病の患者さんとその家族を対象に行った調査の結果、心・脳血管疾患を発症するまで心・脳血管疾患が糖尿病の合併症だと知らなかった人は2～3人に1人という高い割合に上ることがわかりました。また発症後は糖尿病の進行だけでなく心・脳血管疾患の再発や後遺症にも不安を抱える人が多いことが浮き彫りになり

ました。

2型糖尿病は糖尿病自体が軽症でも、突発的に命が危険にさらされる心・脳血管疾患のリスクが高く、その予防にも注力する必要があります。ノボ ノルディスクはこれからも、より多くの方にこのことを知っていただくとともに、患者さんの負担を減らせるよう支援していきます。



2017年9月発行

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1

www.novonordisk.co.jp

All Rights Reserved.

031-001011-28 (2017年9月作成)